



日高中部通年雇用促進協議会主催による『高校生と働く大人の放課後トーク2022』が10月12日に静内エクripsホテルで開かれ、地元企業から38人と地元の高校生79人が参加しました。

この事業は、高校生の本音や企業の思いを語り合い、若手人材の定着や育成を目的として、今回で2回目となります。参加者は18グループに分かれ、『働くことの魅力』などをテーマに楽しく語り合い、参加した生徒は「親に仕事のことを聞く機会がなく、実際に大人の話を聞いて良かった。就職について安心できた」と話しました。

## 企業と生徒が本音で語り合う 高校生と働く大人の放課後トーク

# NEWS FLASH

ニュースフラッシュ



## ハーモニカの演奏を聴き 児童らが交流

教育委員会は、学校再編に向け児童の交流を円滑に進めるため、令和5年4月に再編する静内小、山手小、東静内小の交流事業を9月16日に静内小学校で開きました。交流会には、各学校の1・2年生88人が参加し、クロマチックハーモニカ演奏者の南里沙さん

## 児童らが交流

を招いて、ハーモニカによる童謡や人気アニメの主題歌のほか、各校の校歌などが披露されました。児童らは音楽に合わせ拍手をしたり、南さんからの質問に大きな声で答えるなど、楽しい時間を過ごし、交流を深めました。



## 懸命に走り櫛をつなぐ シベチャリ駅伝大会

シベチャリマラソン・駅伝大会実行委員会（松井惟也会長）主催の『第47回シベチャリ駅伝大会』が10月9日に静内市街地で3年ぶりに開かれ、町内外の8歳から83歳まで29チーム173人が参加しました。大会は、年齢区分などにより5クラスに分かれ、1人約2キロ走り、1チーム5人で櫛をつなぎゴールを目指しました。沿道からは「頑張れ」と大きな声援が上がり、選手らは秋空の下、心地よい風を受けながらスポーツの秋を楽しみました。

## 善行表彰

### 古家健治さん(77) = 静内柏台

町は、6月15日にこども基金造成資金として500万円を寄付された古家健治さんへ9月22日に善行表彰を贈りました。

古家さんは「今は亡き妻の町子と以前から相談していて、私たちには子どもがいないので、地域に生まれてくる子どもたちに何かしたいという思いから寄付を続けています」と話し、大野町長は「町ではこども基金条例を制定し、ご厚志を最大限に尊重した形にしたい」と感謝を述べました。



### (株) ツルハ = 札幌市

町は、2月28日に感染症対策衛生用品として手指消毒用ハンドジェル500mlを3万6,000本寄付された(株)ツルハ（八幡政浩代表取締役社長）へ10月13日に善行表彰を贈りました。

片山北海道第二店舗運営部長は「日ごろから地域のお客さまに貢献する気持ちを持ち、今後も引き続き地域に貢献していきたい」と話し、大野町長は「たくさんの量の消毒液をいただき大変ありがたい。町内の施設で有効に使わせていただいています」と感謝を述べました。



## 三石小学校児童が 秋の味覚ブドウ狩りを体験

10月11日に三石小学校を目的に、同社により平成17年から行われておが幌村建設㈱（幌村司代り、今年で18年目を迎えます。表取締役・三石蓬栄）のビニールハウスで、大きく実った巨峰やデラウェアなどのブドウ狩り体験を楽しみました。6年生の児童は「1年生のときは、手が届かず取ってもらったけど、今は届くようになった。今は届くようになった。この体験は、「上級生（ハウスの中は）甘いブドウと土の香がする」と笑顔で話しました。

